

島根県出雲市平田方言



島根県方言区画図

【島根県の方言区画】島根県の方言は、県東部で話される出雲方言、県西部で話される石見方言、隠岐諸島で話される隠岐方言の3つに分けられる。このうち、出雲方言と隠岐方言は、中舌母音[i]を有する（あるいはかつて中舌母音を有していたと考えられる）など、幾つの特徴を鳥取県西部（伯耆）の方言と共有しており、あわせて「雲伯方言」と呼ばれることがある。

出雲・隠岐方言を含めた雲伯方言の特徴としては、中舌母音の他に、母音の無声化や合拗音[kwa][gwa]の存在、母音間のラ行子音が脱落する現象などがあげられる。これらの特徴は、石見方言には見られないものである。本稿で扱う活用体系においても、出雲・隠岐方言と石見方言とは異なる部分が多い。

ただし、出雲・隠岐方言内部も一様ではない。例えば、母音の中舌化は出雲方言に比べて隠岐方言においては甚だしくない。また、「イキテ ミッワイ(行ってみよ)」などのラ行音の促音化現象は出雲方言にない隠岐方言特有の現象である。また、アクセントについても、出雲方言が多型アクセントであるのに対して、隠岐方言は二型あるいは三型アクセントの体系であるという違いがある。

出雲方言内部においても地域差が認められ、広戸(1950)によれば、出雲地域の方言は音声面及び形態・統語論の面から、現在の出雲市域を中心とする北西部地域の方言、現在の仁多郡奥出雲町を中心と

する南部地域の方言、現在の安来市域を中心とする北東部地域の方言に分けられるという。

【出雲市平田方言について】出雲市は、島根県の中東部に位置する。出雲市方言は、その名のとおりに出雲地域に属し、先の区画で言えば北西部方言の一つと考えられる。地理的にも出雲地域の北西端に位置する。ただし、出雲市内でも若干の方言差が認められる。本稿で対象とするのは、出雲市でも最も東部に位置する旧平田市域の方言である（平田市は2005年に、出雲市と合併した）。出雲方言全般に、所謂「ラ行五段化」（この報告書での「r語幹化」と呼ばれる現象）がかなりの程度認められるが、その中でも出雲市方言では、「ラ行五段化」が比較的進んでいると言われる（小西2011）。

音声面の特徴としては、まず、「字」[dzi]、「髪」[kami]、「する」[si:]など、イ・ウ段母音の中舌化がある。かつては少なくともサ・タ・ザ(ダ)行でイ・ウ段の対立を失っていたと思われるが、現在は特にイ段音に中舌化が著しく、音韻的には標準語に準じたイ・ウ段の対立があると考えられる。また、標準語の「セ」「ゼ」に対応する音節は、しばしば[ec][dze]で現れる（「蟬」[cemi ~ semi]など）。また、標準語の「イ」「ウ」に対応する音節は語頭位置で[i ~ e][o]で現れる（「鳥賊」[jka]、「牛」[oei]など）。なお、「ウ」のみならず、標準語のウ段音節に対応する母音は、[o]で現れることがある（「虫」[moei]など）。その他、ハ行子音（特に標準語の「ヒ」に対応する音節頭の子音）に両唇摩擦音が現れる場合があること（「光」[ɸɸkari ~ ɸkari]など）、標準語のオ段長音のうち母音連続 au に由来するものがア段長音で現れること（「坊主」[ba: dzi]など。なお、「カカ(一)」「書こう」や「カクダラ(一)」「書くだらう」など意志・推量の形式も参照）が特徴としてあげられる。

また、先述のとおり、母音間のラ行子音(r)の脱落が起こる。ただし、原則としてiあるいはuの前の場合に限られる。eの前でも脱落が生じることがあるが、「アー(あれ)」「ダー(誰)」など代名詞・疑問詞類の他、受身・可能形でも見られる（「ミラエ

一」(見られる)など)。

【表記について】中舌母音[i]を含む音節のうち、歯擦音を頭子音とする音節は、「スイ」[si~ei]「ツイ」[tsi~tei]「ズイ」[dzi~dzi]などと表すが、その他のものについては「イ」[i]「キ」[ki]「ミ」[mi]など、イ列音節の仮名で表記し、[i] [ki] [mi]などと表記し分けない。また、「セ」「ゼ」で表記したものは、[ee~se] [dze~dze]で現れるものである。

なお、先述のr脱落現象は、r脱落前の形とr脱落

後の形がどちらも許容されることなどから、表層における音声的な現象と考えている。そのため、以下においては、仮名書きでは発音されたものに近い形(表層形)で表記し、それに続く括弧内に基底形とも言うべきr脱落前の形式を表記する。

【調査概要】本稿の記述は、出雲市平田で生育し、調査時も出雲市平田に居住していた昭和10年代・20年代生まれの男性2名を対象とする臨地面接調査によって得たデータにもとづく。

島根県出雲市平田方言の活用表

《動詞》

| | | 多段一般型 書く | 多段特殊型 死ぬ | 一段型 見る | 来る | する |
|-------------|--------|--------------------|------------------------------------|--------------------------|--------------------|-------------------|
| 終 止 類 | 断定非過去 | カク | スイノー | ミー | クー | スー |
| | 断定過去 | カエタ | スインダ | ミタ | キタ | スイタ |
| | 命令 | カケ カクダ | スイネ (スイノーダ) | ミー ミレ ミーダ | コエ クーダ | セー スーダ |
| | 禁止 | カクナ カクダネ | スイノーナ スインナ スイノーダネ スイヌダネ | ミーナ ミーダネ | クーナ クーダネ | スーナ スーダネ |
| | 意志 | カカ (ー) | (スイナ (ー)) | ミラ (ー) (ミョ (ー)) | コラ (ー) | サ (ー) |
| | 推量 | カカ (ー) カクダラ (ー) | スイナ (ー) スイノーダラ (ー) スインダラ (ー) | ミラ (ー) ミーダラ (ー) | コラ (ー) クーダラ (ー) | サ (ー) スーダラ (ー) |
| 接 続 類 | 連体非過去 | カク | スイノー | ミー | クー | スー |
| | 連体過去 | カエタ | スインダ | ミタ | キタ | スイタ |
| | 中止 | カエテ | スインデ | ミテ | キテ | スイテ |
| | 仮定 | カキヤ カカ | スイニヤ スイナ | ミリヤ ミラ | クリヤ クラ | スリヤ サ |
| 派 生 類 | 否定 | カカン | スイナン | ミラン ミン | コラン コン | サン セン |
| | とりたて否定 | カキヤセン カカセン | スイニヤセン スイナセン | ミリヤセン ミラセン | コラセン | サセン |
| | 丁寧 | △カキマス | △スイニマス | △ミマス | △キマス | △スイマス |
| | 使役 | カカセー | スイナセー | ミサセー ミラセー | コサセー | サセー |
| | 受身 | カカエー | スイナエー | ミラエー | コラエー | サレー |
| | 可能 | カカエー カケー | スイナエー | ミラエー ミエー | コラエー | サレー |
| | 尊敬 | カカッシャー カカエー | スイナッシャー スイナエー | ミラッシャー ミサッシャー ミラエー | 《ゴダッシャー》 コラエー | サッシャー サレー |
| | 継続 | カイトー カイチョー | スインドー スインジョー | ミトー ミチョー | キトー キチョー | スイトー スイチョー |
| | 希望 | カキテ | スインテ | ミテ | キテ | スイテ |
| | のだ | カクダ | スイノーダ スイヌダ | ミーダ | クーダ | スーダ |

多段型動詞の基幹音便形

| 語幹末子音 | 語例 | 活用形例(過去形) | 作り方 |
|-------|------------|-----------|-----------------------------------|
| k | 書く kak・u | カエ-タ | kをeあるいはiにする。但し、「行く」ek・uは例外(本文参照)。 |
| g | 嗅ぐ kag・u | カエ-ダ | gをeあるいはiにする。-タが-ダになる。 |
| s | 出す das・u | ダエ-タ | sをeあるいはiにする。 |
| t/c | 立つ tac・u | タッ-タ | t/cをQ(促音)にする。 |
| n | 死ぬ sin・oru | スィン-ダ | nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 |
| b | 飛ぶ tob・u | トン-ダ | bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 |
| m | 飲む nom・u | ノン-ダ | mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 |
| r | 切る kir・u | キッ-タ | rをQ(促音)にする。 |
| w/o | 買う ka(w)・u | カッ-タ | wをQ(促音)にする。但し、本文参照。 |

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

| | | 高い | 静か(だ) | 学生(だ) |
|-------------|-------|---------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 終 止 類 | 断定非過去 | タケ | スィズカダ スィズカナ | ガクセーダ |
| | 断定過去 | タカカッタ | スィズカダッタ スィズカナッタ | ガクセーダッタ |
| | 推量 | タケドラ(一) タカカラ(一) | スィズカドラ(一) | ガクセードラ(一) |
| 接 続 類 | 連体非過去 | タケ | スィズカナ | 《ガクセーノ》 |
| | 連体過去 | タカカッタ | スィズカナッタ | ガクセーダッタ |
| | 中止 | タカテ | スィズカデ | ガクセーデ |
| | 仮定 | タカケリヤ タカケラ タケナラ タカカッタラ | スィズカナラ スィズカナッタラ | ガクセーナラ ガクセーダッタラ |
| 派 生 類 | 否定 | タカネ タケコタネ | スィズカナコトネ スィズカナコタネ | ガクセーダネ |
| | なる | タカナー タカンナー | スィズカンナー | ガクセーニナー |
| | 丁寧 | タカゴザエス タカゴザエマス | スィズカデゴザエス スィズカデゴザエマス | ガクセーデゴザエス ガクセーデゴザエマス |
| | のだ | タケダ | スィズカダ | ガクセーダ |

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」と基幹一段型(以下「一段型」とがある。おおよそ、多段型にはa類のうち「書く」「居る」類、一段型にはb類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)の動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ段の4形と音便形およびア段撥音の形がある。「カク」(書く)の場

合、カカ-ン(kak・a-N)、カキ-テ(kak・i-te)、カク(kak・u)、カケ(kak・e)、カエ-テ(kae-te)、カキヤ・カカ(kak・ja、kak・a)など。また、語幹末子音には、k(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。語例は、表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。

多段型の特殊なものとして、語幹末がn(ナ行)の「スィノー～シノー(sin・o-ru)」(死ぬ)と「エノー～イノー(in・o-ru)」(去る)がある。「書く」

などを多段一般型とするのに対し、この2語を多段特殊型とする。「スィノー」を例にすると、否定形スィナ-ン (sin・a-N)、仮定形スィニャ・スィナ (sin・ja、sin・a) など、多段一般型と同じ活用形となる部分も多いが、その中であって断定非過去形・連体非過去形スィノー (sin・o-ru) は例外的な形である。これは、古典語のナ行変格活用の特徴を引き継ぐ形式であると考えられる。

一段型には、ミー (mi-ru)、オキー (oki-ru) など基幹がイ段の動詞と、ネー (ne-ru)、アケー (ake-ru) など基幹がエ段の動詞がある。多段型 r 語幹動詞(「切る」など)と同じく、断定非過去・非過去連体接辞に含まれる r はしばしば脱落する。一段型の活用は、「ミー」を例にすると、断定非過去形ミー (mi-ru)、仮定形ミ-リャ・ミ-ラ (mi-rja, mi-ra)、受身・可能形ミ-ラエー (mi-rarer-u) の他、命令形ミ-レ (mi-re)、意志・推量形ミ-ラ (mi-ra)、否定形ミ-ラン (mi-raN)、使役形ミ-ラセー (mi-rase-ru) などにも r 始まりの接辞が付き、多段型 r 語幹動詞に対応した形式が現れる。共通語より r 語幹化が進んでいると言えよう。なお、可能には可能動詞形ミエー (mire-ru) が用いられる他、否定形には r 語幹化していないミン (mi-N) も用いられる。使役形でも、使役動詞形ミセー (mise-ru) とともに、r 語幹化していないミ-サセー (mi-sase-ru) という形も用いられる。

不規則な活用をする動詞として、「クー」(来る)と「スー」(為る)がある。やはり、断定非過去・非過去連体接辞に含まれる r はしばしば脱落する。「クー」は、キ-タ (k・i-ta)、クー (k・u-ru)、コ-エ (k・o-e) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段にわたる。また、否定形にコ-ン (k・o-N) の他、コ-ラン (k・o-raN) という形が見られるように r 語幹化が進んでいる。「スー」は、サン (s・a-N)、スィタ (s・i-ta)、スー (s・u-ru)、セー (s・e-R) と、基幹が「サ」「スィ(〜シ)」「ス」「セ」の4段に渡る。なお、意志・推量形のサ (s・a) や、仮定形のスィャ (s・u-rja) に対するサ (s・a)、否定形のセン (s・e-N) に対するサ (s・a-N) は、多段型化の徴証と言える。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段一般型動詞は「カク」など基幹ウ段形となる。ただし、既述の通り、「キル」(切る)など r 語幹動詞は r が脱落し、「キー」となる。また、b 語幹動詞と m 語幹動詞の断定非過去形は、「トン」(飛ぶ)や「ヨン」(読む)のように、語末音節が撥音化する。多段特殊型動詞は「オ段形+ル」から r が脱落した「スィノー」「エノー」という形が用いられる。一段型動詞は「基幹(=語幹)+ル」から r が脱落した「ミー」など、「来る」「する」は「ウ段形+ル」から r が脱落した「クー」「スー」となる。過去形も含めて、断定形に付く終助詞として「ズ」「ワ」などがある。

- ・マイトスィ ネンガジョー カク。(毎年、年賀状を書く。)
- ・テーボーノ サキデ ツ。(堤防の先で釣る。)
- ・スズメワ トン。(雀は飛ぶ。)
- ・バイキンワ ネット スィノー。(ばい菌は熱で死ぬ。)
- ・マインツ イチズィカンホド ニワニ デー。(毎日一時間ほど庭に出る。)
- ・マエアサ ゴズィニ クー。((新聞屋さんは)毎朝五時に来る。)
- ・マインツィ ベンキョー スー。(毎日勉強する。)

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「スィ(シ)」に、「タ」を後接する。ただし、多段型動詞の中でも「行く」は、促音便形に「タ」を後接させる形に加え、イ段形「エキ」に「タ」を後接する形も見られる。また、多段型 w 語幹動詞「買う」では、促音便形に「タ」を後接させる形に加え、その促音がない形も見られる。ただし、他の w 語幹動詞は、促音便形しかない。

- ・コトスィモ カエタ。(今年も書いた。)
- ・マツエデ {カッタ/カタ}。(松江で買った。)
- ・キンニヨモ ズィンジャニ {エッタ/エキタ}。(昨日も神社に行った。)
- ・ゴキブリ タタエタラ スグ スィンダ。(ゴキブリを叩いたら、すぐに死んだ。)
- ・キンニヨワ ヨズィハンニ キタ。(昨日は四

時半に来た。)

〈命令形〉

ぞんざいな命令形としては、多段型動詞「カケ」「イネ」などのエ段形、一段型動詞「ミー」など基幹長音形および「ミレ」など基幹に「レ」が後接する形、「来る」の不規則な「コエ」という形、「する」のエ段長音形「セー」、がある。

- ・ハヤ エネ。(早く帰れ。)
- ・モー オセケン ハヤ {ネー/ネレ}。(もう遅いから、早く寝ろ。)
- ・ハヤ コツツイ コエ。(早くこちらに來い。)

また、先の断定過去形をそのまま用い、やや丁寧な命令(相手に対する希望、願い)を表す。

- ・ソノ ボーシガ キニエッタケン オラニ ゴイタ。(その帽子が気に入ったので、私にください。)

なお「のだ形」も相手に対して指示する形として用いられることがある。

- ・ハヤ コツツイ クーダガ。(早くこっちに來い。)

さらに、丁寧な命令形としては以下のような多段型動詞と「来る」「する」はイ段に、一段型動詞は基幹に「ナハエ」「ナハーマセ」が続いた形や、「～ッセ」という形も見られた。

- ・タバナハーマセ。(お食べになってください。)
- ・カキナハエ/カカッセ。(お書きになってください。)

〈禁止形〉

ぞんざいな言い方ではあるが、全ての動詞について断定非過去形に「ナ」を付した形となる。なお、既に述べたように、多段型 r 語幹動詞や一段型動詞、「する」「来る」については、語末音節-ru の r はしばしば脱落する。また、多段型のうち特殊な「死ぬ」等については、断定非過去形に「ナ」を付した「スィノーナ」という形に加えて、「スィンナ」という形もある。

- ・ソギヤントコニ カクナ。(そんなところに書くな。)
 - ・ケッスイテ {スィンナ/スィノーナ}。(決して死ぬな。)
 - ・ムダズカイ スーナ。(無駄遣いするな。)
- また、断定・連体非過去形に「ダネ(～ダナエ)」

を付した「クーダネ」という形も、相手に対して行為・動作の禁止を表す形式として用いられる。多段特殊型の「死ぬ」等については、断定非過去形に「ダネ(ダナエ)」を付した「スィノーダネ」という形に加えて、「スィヌダネ」という形もある。

- ・イツマデモ {ホエーナ/ホエーダネ}。(いつまでも泣くな。)

〈意志形〉

多段型動詞は「カカ」あるいは「カカー」などのア段形となる。一段動詞の場合は「ミラ(ー)」という基幹(=語幹)に「ラ(ー)」を付した形、「する」は「サ」あるいは「サー」というア段形、「来る」はオ段形+「ラ(ー)」の「コラ(ー)」となる。これらに続く助詞は、「カ」「ズ」などがある。この他、各動詞において断定非過去形が意志的用法に用いられることがある。また、意志形に「コイ」という形式が後接すると、全体としての意味は勧誘となる。

なお、我々の調査の範囲では、多段特殊型の「死ぬ」「去ぬ」や一段型の「見る」について、先行研究から意志形として予測される「スィナ(ー)」「イナ(ー)」および「ミヨ(ー)」という形式が意志形として用いられることは確認できなかった。ただ、勧誘形の「スィナコイ(死のう)」「ミヨ(ー)コイ(見よう)」という形が見られたこと、また「スィナ(ー)」が推量形として用いられることがあることから、表中では(スィナ(ー))(ミヨ(ー))など括弧を付して示した。

- ・ソロソロ ネンガジョー カカカ。(そろそろ年賀状を書こうか。)
- ・アスィタワ ロクズイニ オキラカ(明日は六時に起きよう。)
- ・ソロソロ ベンキョー サカ。(そろそろ勉強しようかな(意志)。)
- ・ソロソロ ベンキョー サーコイ。(そろそろ勉強しようよ(勧誘)。)

〈推量形〉

推量形は二つあり、一つは意志形と同じ形、もう一つは「カクダラ(ー)」のような「断定非過去形+ダラ(ー)」である。ただし多段特殊型では「断定非過去形+ダラ(ー)」の「スィノーダラ(ー)」の他に「スィンダラ(ー)」という形もある。推量形につづく終助詞としては「ゾ」が頻繁に用いられる。意

志形と同じく、多段型動詞の場合、ア段短音形とア段長音形のどちらかが現れうるが、「ゾ」が続く場合は短音形が好まれる。「ダラー」も「ゾ」が続く場合は「ダラゾ」となることが多い。

- ・ウメコト {ケラゾ/ケーダラゾ}。(上手に蹴るだろう。)
- ・ソロソロ {コラゾ/クーダラー}。(そろそろ来るだろう。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形となる。連体と断定とで、アクセント上の区別も無い。

- ・コノクスー ノントキャ ホカノクスー ノンダラ エケン。(この薬を飲むときは、他の薬は飲んだらいけない。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形となる。過去形の場合も、連体と断定とでアクセント上の区別は無い。

- ・コノホン カエタ スィニ アッタ。(この本を書いた人に会った。)

〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「スィ(シ)」に、「テ」を後接する。ただし、多段型動詞の中でも「行く」は、促音便形に「タ」を後接させる形に加え、イ段形「エキ」に「テ」を後接する形も見られる。また、促音便形「カッテ」をとることが予測される多段型 w 語幹動詞「買う」は、促音がない形「カテ」となる。他の w 語幹動詞は促音便形となる。

- ・マズ センセニ カエテ、ソーカラ トモダツィニ カケ。(まず、先生に書いて、それから友達に書け。)
- ・ハナ カテ ミマイニ エク。(花を買って、見舞いに行く。)

〈仮定形〉

多段型動詞は一般・特殊の違いに関係なく、「カキヤ」のような拗音ア段形か「カカ」のような(直音)ア段形となる(ただし、w 語幹動詞は「カワ」など直音形のみ)。一段型は、「ミリヤ」もしくは「ミラ」のような、「基幹+リヤ/ラ」となる。「来る」は「ウ段形+リヤ/ラ」の「クリヤ」あるいは「クラ」となる。「する」は「ウ段形+リヤ」の「スリヤ」が用いられる他、ア段形の「サ」がある。この「サ」は、

この方言において「する」が多段型化していることを示唆するものである。

- ・ダーニ {カキヤ/カカ} エカ ワカラン。(誰に書けば良いのか分からない。)
- ・ウエオ {ミリヤ/ミラ} キリガ ネ。(上を見ればきりが無い。)
- ・ベンキョ {スリヤ/サ} アタマガ ヨーナカモセン。(勉強をすれば頭がよくなるかもしれない。)

〈否定形〉

多段型動詞と「する」はア段形に「ン」が付く形となる。ただし、「する」はエ段形「セ」に「ン」が付く形もある。一段型動詞は基幹に「ン」もしくは「ラン」が付く。「来る」はオ段形「コ」に「ン」もしくは「ラン」が付く。否定形の活用を「ミル」で代表させて下に示す。

断定非過去・連体非過去形 ミン/ミラン

断定過去・連体過去形 ミダッタ/ミンダッタ/
ミラダッタ/ミランダッタ

推量形 ミンダラー/ミランダラー

中止形 ミンコニ/ミランコニ/ミンデ/ミランデ

仮定形 ミラニヤ/ミラナ

- ・テゴ {セン/サン}。(手伝いをしない。)
- ・センゲツワ ヒトツダエ エーガ {ミラダッタ/ミダッタ/ミランダッタ}。(先月は一つも映画を見なかった。)
- ・テレビ {ミンコニ/ミランコニ} ベンキョ セー。(テレビ見ないで勉強しろ。)
- ・エーガ {ミラナ/ミラニヤ} カネワ カカラン。(映画を見なければ金はかからない。)

〈とりたて否定形〉

上の否定形とは別に、「カキヤセン/カカセン」など形の上では「とりたて否定」にあたる形式がある。特に事柄の成立について強く否定する際に頻繁に見られるが、一般の否定形と交替可能な場合もある。

多段型動詞の場合、拗音ア段形(長音形も可)もしくは直音ア段形に「する」の否定形「セン」を付した形である。一段型は、「ミリヤ」もしくは「ミラ」のような「基幹+リヤ/ラ」に、「来る」は「オ段形+ラ」の「コラ」に、「する」はア段形の「サ」に、

それぞれ「セン」を付した形となる。また、とりたて否定形の構成要素となる「する」の否定形として用いられるのは「セン」のみで「サン」という形式が用いられないことに注意されたい。

- ・アイトト ハナスイ サセン。(あいつと話さない)
- ・ダチョウワ ハスイーノワ ハエガ {トビヤーセン／×トビヤーサン}。(ダチョウは走るのは速いが、飛びはしない。)
- ・イカセンズ／イキヤセンズ／×イキヤサンズ。
([あいつは今忙しいから遊びに誘っても]行きはしないよ。)

〈丁寧形〉

多段型動詞と「来る」「する」はイ段に、一段型動詞は基幹に、「マス」が付く。以下のような活用形が今のところ確認されている。「書く」で代表して示す。

- 断定非過去・連体非過去形 カキマス
 断定過去・連体過去形 カキマスィタ
 勧誘形 カキマシヨヤ／カキマシヨコイ
 否定形 カキマセン

ただし、話者の意識として上記のような「マス」形を使うと、共通語／標準語を話しているような感覚があると言い、動詞によっては「マス」形が許容されないものもある(例えば、×スイニマス、×ミマスなど)。伝統的な方言形ではないということかもしれない。

〈使役形〉

多段型動詞はア段形に「セー (se-ru)」が、一段型動詞は基幹に「サセー (sase-ru)」もしくは「ラセー (rase-ru)」が、「来る」は「コ」に「サセー」が、「する」は「サ」に「セー」が付く。「セー」「サセー」「ラセー」とも、一段型動詞に準じた活用をする。

- ・アカチャンニ ツツ ノマセー。(赤ちゃんに乳を飲ませる。)
- ・ワルノワ アノスダケン {ワビサセー／ワビラセー}。(悪いのはあの人だから、わびさせる。)
- ・フッパッテデモ ユサセー。(引っ張ってでも来させる。)

なお、以下のような「～カス」という言い方が一部見られたが、詳細は不明である。

- ・アイトオ ホエカス。(あいつを泣かせる。)

〈受身形〉

多段型動詞はア段形に「レー (re-ru)」が、一段型動詞は基幹に「ラレー (rare-ru)」が付く。しばしば、接辞中のrが脱落し、「エー」あるいは「ラエー」と実現する。また、「来る」は「コ」に「ラレー／ラエー」、「する」は「サ」に「レー」が付く。一段型動詞に準じた活用をする。

- ・アスイ フマエタ。(足を踏まれた。)
- ・コギヤントコデ ネラエート ジャマダ。(こんなところで寝られると邪魔だ。)
- ・ズィブンドキニ ユラエテ メーワク スィチョーワ。(ご飯時に来られて、迷惑している。)

〈可能形〉

受身形と同じ形が用いられることが多い。ただし、「カケー (書ける)」のような可能動詞形、「デレー (出れる)」のような所謂ラ抜き形もしばしば用いられる。なお、能力可能・条件可能の区別等は今までの調査では確認できていない。

- ・モー カンズィガ {カカエー／カケー}。(もう漢字が書ける。)
- ・スモー サイゴマデ {ミラエタ／ミエタ}。(相撲を最後まで見られた。)
- ・ライシューモ ヒマダケン ユラエー。(来週も暇なので来られる。)

〈尊敬形〉

受身・可能形としても用いられる「カカレー」「カカエー」などの他、「カカッシャー」「カキナハー」という形もある。このうち最も頻繁に用いられるのは、「カカッシャー」という形である。この「ッシャー」形は、一段型動詞の場合、「ミラッシャー」「ミサッシャー」となる。つまり、「ッシャー」形は、多段型動詞の場合にはア段形に「ッシャー」が、一段型の場合、基幹に「ラッシャー」あるいは「サッシャー」という形を付したものとして分析できる。なお、「来る」の場合はゴダッシャーという特別な形式が用いられる。「する」の場合は、ア段形「サ」に「ッシャー」を付す。

- ・センセーガ テガミ {カカッシャー／カカレー／カカエー／カキナハー}。(先生が手紙をお書きになる。)
- ・センセーワ アサノ ニューズ {ミラッシ

ヤー／ミサッシャー／ミラエ}。(先生は朝のニュースを見られる。)

- ・センセーガ モー ズィキ ココニ ゴダッシャー。(先生がもうすぐここに来られる。)

〈継続形〉

所謂動作進行と結果継続の区別はない。「カイトー」「ミトー」あるいは「カイチャー」「ミチャー」など、多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「スイ」に「トー(tor-u)」あるいは「チャー(cjor-u)」を付けた形となる。多段型動詞に準じた活用をする。

- ・エマ ショクズィ {スイトー／スイチャー}。(今食事をしている。)
- ・モー ソーズィ {スイトー／スイチャー}。(もう掃除している。)
- ・イマ オヤズガ ゴミ {ステトー／ステチャー}。(今お父さんがゴミを捨てているところだ。)
- ・ダーカガ ゴミ {ステトー／ステチャー}。([こんなところに] 誰かがゴミを捨てている。)

〈希望形〉

多段型動詞はイ段、一段型動詞は基幹、「来る」は「キ」、「する」は「スイ(シ)」に「テ(～テー～タエ)」が付く。形容詞型の活用をする。

- ・リョコーガ スイテ。(旅行がしたい。)

なお、「～ください」という希望丁寧形にあたる言い方としては、以下のような形が見られた。

- ・ハナコガ キタ ヒ オスイエテ {ゴイタ／ゴスイナハエ／ガッシャイ}。(花子が来た日を教えてください。)

〈のだ形〉

連体非過去形に助動詞ダを後接する形が用いられる。ただし、多段特殊型の場合には「スイヌダ」という形もある。また、連体過去形にダを後接して「～たのだ」にあたる形を作ることできる。所謂準体助詞は用いられない。

- ・イツィマンエンモ スーダ。(一万円もするんだ。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用の型は一つである。

〈断定非過去形〉

断定非過去形と連体非過去形は同形で、下の表のように、語幹そのままもしくは語幹末の母音が変わった形が用いられる。それらの長音形が用いられることもある。変化形は、接辞エ(イ)との融合に由来すると考えられる。

| 語幹末母音 | 変化後 | 語例 |
|-------|-----|------------|
| a | e | タケ (高い) |
| i | i | スズスイ (涼しい) |
| e | e | エ (良い) |
| u | u | ノク (暑い) |
| o | e | スイレ (白い) |

- ・コノ セチャー ヤサイノ ネダंगा タケ。(この頃は野菜の値段が高い。)
- ・キョーワ ホンニ ノクー。(今日は本当に暑い。)
- ・アノスワ イロガ スイレ。(あの人は色が白い。)

〈断定過去形〉

「タカカッタ」など、語幹に接辞「カッタ」を付す。

- ・キンニョ イキタ ミシャ フツゴニ タカカッタ。(昨日行った店はとても高かった。)
- ・マナツデモ スズスイカッタ。(田舎の家は真夏でも涼しかった。)

〈推量形〉

「タカカラ」など、語幹に「カラ」を付す形と、「タケダラ」など、断定非過去形に「ダラ」を付す形とがある。

- ・コノ ミチャー {タケダラノー／タカカラノー}。(この店は高いだろうな。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形である。

- ・タケ フク カッタノー。(高い服を買ったな。)
- ・ノク トキャ ソトデ アソンドラ エケンズ。(暑いときは外で遊んではいけないよ。)
- ・スズスイ ズィカンニ スィゴト ヤッテスィマワコイ。(涼しい時間に仕事をやってしまおう。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形の、語幹に「カッタ」が付く形である。

- ・サンネンマエマデ オラヨーモ セノ ヒクカッタ コガ モー コゲン オーキンナッタカヤ。(三年前まで俺よりも背の低かった子が、もうこんなに大きくなったか。)

〈中止形〉

「タカテ」「ノクテ」など、語幹に「テ」を付す。

- ・スインパエガ オーテ クイガ ヤスマラン。(心配事が多くて、気が休まらない。)

〈假定形〉

語幹に「ケリヤ」「ケラ」を付す。あるいは、断定(連体)非過去形に「ナラ」を付すという形もある。「～カッタラ」という言い方もあるが、やや共通語的であるという話者のコメントがあった。

- ・{タカケリヤ／タカケラ／タケナラ／タカカッタラ} カワンデモ エーズ。(高ければ買わなくても良い。)

〈否定形〉

「タカネ」など語幹に「ネ(あるいはナエ)」を付す形のほか、「タケコタネ」のような連体非過去形+「コタネ(=「コト」+助詞「ワ」+「ネ」)」という形もある。後者は、形としてはとりたて否定であるが、動詞の場合とは異なり特に事柄の成立を強く否定するという意味はない。むしろ、一般の否定の際にも「タケコタネ」という形の方を使うという話者のコメントがあった。

- ・オモッチョタホド {タカネ／タケコタネ}。(思っていたほど高くない／高くはない。)

なお、過去否定形は語幹に「ナカッタ」を付す。

- ・エアコンワ アッタドモ スズスイナカッタ。(エアコンはあったけど、涼しくなかった。)

〈なる形〉

「タカナー」「ノクナー」のように、語幹にそのまま「ナー」が続く形、もしくは「タカンナー」のように語幹+ンナー(=ニ+ナル)という形になる。

- ・モー ソロソロ スズスイナーズ。(そろそろ涼しくなるよ。)
- ・ニカイニ {アゲリヤ／アゲラ} ヒロンナニヨ。(邪魔なものを)二階に上げれば、広がるよ。)

〈丁寧形〉

語幹に「ゴザエス」あるいは「ゴザエマス」を付す。もしくは、語幹に「イ(～エ)」を付し、その後に「デス」を後接させる形もある。

- ・キョーモ ノクゴザエマスネー。(今日も暑いですね。)
- ・エラエ セガ タカエデスネー。ヒャクハツイジューモ アーマスカエネー。(大変背が高いですね。180もありますか。)

〈のだ形〉

形としては所謂「ノダ」にはならず、連体非過去形に「ダ」が後接する。

- ・トテモダネ テガデンホド タケダ。(とても手が出ないほど、高いのだ。)

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語には、「スイズカダ」など名詞述語と同じ形と、「スイズカナ」のような名詞述語にはない形とがある。

〈断定非過去形〉

形容名詞述語には「スイズカダ」など「ダ」を後接する形と、「スイズカナ」のような「ナ」を後接させる形とがある。ただし、後者は「ナ」で言い切りとはできず、「ワー」などの終助詞を伴う。名詞述語は、「ガクセーダ」など「ダ」を後接する形をとる。

- ・マゴガ インダケン イエガ {スイズカダ／スイズカナワー}。(孫が帰ったので、家が静かだ(わ)。)
- ・アノコワ マンダ ガクセーダ。(あの子はまだ学生だ。)

〈断定過去形〉

形容名詞には、「ダッタ」を付す形と「ナッタ」を付す形とがある。名詞の場合は、「ダッタ」を付す形しかない。

- ・コメトキカラ モノイワズデ {スイズカダッタ／スイズカナッタ}。(小さい頃から口数が少なく静かだった。)
- ・エラエ マズイメナ ガクセーダッタ。(とても真面目な学生だった。)

〈推量形〉

形容名詞・名詞ともに「ダラ(ー)」を付す形となる。

- ・タブン スイズカダラー。(たぶん静かだろう。)

- ・アノコワ アルバイトノ ガクセーダラー。
(あの子はアルバイトの学生だろう。)

〈連体非過去形〉

形容名詞では「ナ」を付した形が用いられる。名詞には助詞「ノ」を用いる。

- ・テーネンゴワ スイズカナ トコロデ クラ
スィテ。(定年後は静かなところで暮らした
い。)
- ・ガクセーノ ウツィニ アソンドカント。(学
生の間に遊んでおかなければいけない。)

〈連体過去形〉

連体過去形は、断定過去形と同形であるが、形容名詞の場合、特に「ナッタ」を付す形が用いられやすいようである。

- ・スイズカナナッタ コロガ ナツカスィー。(静
かだった頃が懐かしい。)
- ・ガクセーダッタ ズィブンガ ナツカスィ。
(学生だった頃が懐かしい。)

〈中止形〉

形容名詞・名詞に「デ」を後接する。

- ・マワーモ スイズカデ クラスィヤスィ ト
コロダ。(周りも静かで暮らしやすいところ
だ。)
- ・チョーナンワ ガクセーデ チョージョワ
シャカイズィンダ。(長男は学生で、長女は
社会人だ。)

〈仮定形〉

形容名詞には「ナラ」あるいは「ナッタラ」を付す。名詞には、「ナラ」あるいは「ダッタラ」を付す。

- ・オトコンコガ {スイズカナナッタラ／スイズ
カナラ} カエッテ スィンパエダワ。(男
の子が静かなら、かえって心配だ。)
- ・サンニントモ {ガクセーナラ／ガクセーダ
ッタラ} オヤワ タイヘンダワ。(三人と
も学生だったら、親は大変だわ。)

〈否定形〉

形容名詞の場合、連体非過去形+「コト」+「ネ」あるいは連体非過去形+「コタネ(=コト+助詞「ワ」+ネ)」という形が見られる。名詞の場合、「で+はない」の縮約形と見られる「ダネ」形式を付す。

- ・ヨル オソクマデ {スイズカナコトネ／ス
ィズカナコタネ}。(夜遅くまで静かでない。)

- ・ドー ミタテテ カレワ ガクセーダネ。
なお、形容名詞・名詞の場合とも、過去否定形は「～ダナカッタ」という形になる。

- ・スイズカダナカッタ。(静かでなかった。)
- ・キタイスィトッタヤナ ガクセーダナカッタ。
(期待していたような学生ではなかった。)

また、形としてはとりたて否定の過去形に対応するものとして、「～ナコタナカッタ」という形があった。これは、形容名詞・名詞ともに用いられる。

- ・アマリ マズィメナ ガクセーナコタナカッ
タ。(あまり真面目な学生ではなかった。)

〈なる形〉

形容名詞・名詞に「ニ」、さらに「ナー」を後続する。「ニ」は「ン」になることも多い。

- ・ナンカ クートキダキャ スイズカンナー。
(何か食べるときだけは静かになる。)
- ・スィガツカー ダイガクセーニナー。(四月か
ら大学生になる。)

〈丁寧形〉

形容名詞・名詞に「デゴザエス」あるいは「デゴザエマス」を後接する。

- ・マツィナカナノニ {スイズカデゴザエスネ
ー／スイズカデゴザエマスネー}。(町中なの
に静かですね。)
- ・エーカンズィノ {ガクセーサンデゴザエス
ネー／ガクセーサンデゴザエマスネー}。(良
い感じの学生さんですね。)

〈のだ形〉

「のだ」にあたる特別な形がなく、断定非過去形が用いられる。

- ・ヨルノ クズィオ スギート スイズカダ。
(夜の九時を過ぎると静かなのだ。)
- ・コドモワ マンダ ガクセーダ。タイヘンダ
ワ。(子どもはまだ学生なんだ。大変だわ。)

参考文献

- 小西いづみ(2011)「出雲方言における「一段動詞のラ行五段化」に関する覚書」『論叢 国語教育学』復刊2
- 広戸惇(1950)『山陰方言の研究』島根県立教育研修所

(平子達也・友定賢治)